



柏原 勝議員

地域公共交通のあり方と利便性の向上について

町長 沿線自治体とも協議をしながら公共交通機関の確保を進めます

Q 北海道北見バス株式会社が本年4月から1日2000円での乗り放題チケットを販売しております。そして、本町はこの事業に対し5割の補助を行い、1日乗り放題1000円ということはとても画期的だと思います。しかし、このチケットが今販売されているのは商工会だけのことです。利便性のことも考えて勝山、置戸、境野やできれば秋田も含めてこのチケットを買い取るようなシステムを作れないでしょうか。また、北見バスの乗降所の課題もあり、そこへ足を運ぶ交通手段がないという方もおられ、現在運行中の地域巡回バスでは、なかなか対応しきれいていないと思います。公共交通機関を存続させる、交通弱者の利便性を図ることが重要だと思いますが、町長の考えを伺います。

A 高齢化が進む本町にとって、住民の足をどう守るかというのは大きな課題です。そして本町は、地域が

4地区に分散しておりますのでその地区間の移動も含めて、過去から患者移送車やスクールバスなど取り組まれてきた経緯もございます。平成18年にふるさと銀河線が廃線となり、北見バスは本町における唯一の公共交通機関となっております。営業路線における人口減少も進み、また新型コロナウイルス感染症の拡大で利用者数の大幅な減少により、経営が一層厳しいものとなっております。そのため、本町における北見バスの利用促進と利用者の負担軽減を図るために、本年度から新たに北見バスが発行するフリーパス制度に便乗しまして、購入費用の半分を助成しております。2ヶ月を経過した現在93枚の購入実績であります。なかなかまだ浸透してはいないと思います。フリーパス制度・半額助成の普及を図るためには、チケットの販売場所の拡大は必要だと思っております。各地区公民館などでの販売なども、事業体や関係機関とも協議を進めていきたいと

考えておりますが、権利関係など北見バスとの話し合いなども必要となると思いますが、すぐにはとらないかもしれないかもしれませんが進めてまいりたいと思います。

また、まちづくり移動町長室や昨年実施した地域巡回バス運行に関する町民アンケートでも自宅から地域巡回バスの乗り場までの距離があるなどのご意見をいただく機会が多くなりました。現在の巡回方式だけではなく、どのような運行方法や形態が最善なのかを見直しを含め、北見バスの動向を注視しながら検討を進めてまいりたいと思います。

地域公共交通機関を存続させていくためには、事業者に対してお願いをするだけではなく、

新たな支援や現行の便数、路線の見直しなども一定程度必要になると考えております。沿線自治体とも協議をしながら、引き続き公共交通機関の確保に向けた取り組みを進めてまいります。そして、高齢化の進行により免許証の返納もあるため、これらのことを総合的に考え、住民の足の確保の方策の構築を図ってまいりたいと考えております。

北見バス
フリーパス
チケット

No. _____
発行日 年 月 日

お降りの
乗車日:

見本

月 日 1日限り有効

企画・発行元 (一社)北見市観光協会 TEL:0157-32-9900

▲北見バスフリーパスチケット

置戸町の観光振興について

町長

置戸町にも道の駅を整備できることを目標に観光振興を進めていきます

Q

置戸町の観光は鹿の子沢、鹿ノ子ダム、風穴などいろいろありますが、アウトドア観光、インバウンド観光などを考えると、町内に道の駅が必要だと感じております。帯広、置戸、北見の道路路線において、上士幌には道の駅があるので、北見まで行く間には大型が停まってトイレ休憩できる場所は本当に数少ないと思っています。置戸町に対しての集客を考えても道の駅の開設を含め、これからの置戸町の観光振興について町長の考えを伺います。

A

本町ではこれまで鹿の子沢や鹿ノ子ダム、風穴などの自然素材をはじめ、勝山温泉ゆゆうや森林工芸館などの拠点施設の整備のほか、人間ばんば大会などのイベン

トを通じて観光振興を図ってきましたが、アフターコロナを見据えたなかで、団体観光から個人観光へと観光スタイルが変化していくことを踏まえて、勝山温泉ゆゆうを核とした勝山農村公園へのトレイラーハウスやRVパークといったハード面の整備をこの3年間で行いました。また、通信環境の充実など大自然をフィールドとした体験型観光の振興を中心に添えた観光振興に取り組んでいきたいと舵を切っております。地域おこし協力隊が中心となって新たな視点で置戸町の魅力を再発見し、発信する活動を展開してきているので、さらに強化し、さらなる交流人口を呼び込んでいきたいと考えております。道の駅の開設を含めた観光振興ですが、国土交通省が登録する道の駅にはさまざまな

条件があり、24時間利用可能なトイレの設置、観光案内、子育て応援スペースの設置など、今既存の施設では大きな改修が必要となるほか、大型車両を含めた十分な駐車場スペースを確保するための場所や交通量、いろいろなことを鑑みると、なかなかハードルは高いなと考えております。近年整備された北海道内の道

の駅では、特産品の販売や魅力ある食事、子どもから大人まで楽しめる趣向を凝らした大型施設が整備されております。残念ながらその状況を見ますと、スタッフの確保や特産品の品揃え、食事などの提供を考えると本町での整備は難しいと言わざるを得ません。オホーツク管内の道の駅がない自治体は、本町と訓子府町

の2町となっております。ほかの地域に負けることのないぐらいの多くの人がにぎわう道の駅を整備することが出来る時が来ることを目標に、一步一步観光の振興を進めてまいりたいと思いますので、ご理解いただきたいと思います。



▲鹿の子沢虹の滝



阿部光久議員

ゼロカーボンシティの表明と今後の取り組みについて

町長 戦略策定委員会を設置し
計画策定と事業検討を進めたい

Q 地球温暖化により世界各地で気象変動が頻繁に引き起こされ、日本国内でも気象災害が深刻化しています。本町においても記録的な大雨や降雪など、気象災害による被害が発生し、町民生活に大きな影響をもたらしています。

本町は令和5年3月定例会において、ゼロカーボンシティ宣言を行い、2050年までに二酸化炭素排出量ゼロを目指すことを表明しました。ゼロカーボンの実現に向けた取り組みは、町民や事業者の理解と協力が大前提となります。主な取り組みは、施策の基となる地球温暖化対策実行計画を策定し、対策を進めることになるとは思いますが、町民や事業者にとどのような取り組みを要請していくのか。また、ゼロカーボンシティを目指す町民や事業者との合意形成をどのように図られるのか町長に伺います。

A 本町は、豊富な森林資源や畑作物の作用によ

り、二酸化炭素の排出量より吸収量が多い自治体と推計されており、マイナスイ氧化碳の町であります。しかし、この環境問題は全世界にわたって取り組まなければ人類の存続が脅かされる深刻な問題ととらえ、将来にわたりこの豊かな自然環境を次世代にしっかりと引き継いでいくために、町民の皆様や事業者の皆様とともにゼロカーボンシティの実現を目指すことを宣言しました。二酸化炭素排出量実質ゼロとする具体的な取り組みにつきましましては、現在置戸町再生可能エネルギー導入戦略の策定作業を始めております。初めに本町の環境のポテンシャルを分析し、温室効果ガスの排出量に関する推計を行った上で目標を検討し、具体的な政策、それから施策を検討してまいりたいと思います。策定にあたりましては、各地区の自治連絡協議会代表者及び各事業所の代表者を含めた10名程度による再生可能エネルギー導入戦略策定委員会を設置し、具体的な取り組みな

どについて検討いたします。さらに、役場庁舎内にも課長職で構成する策定チームを設置し、計画策定と事業検討を合わせて進めてまいります。また、町民の皆様や事業者の皆様との合意形成を図るためには、アンケート調査の実施や各関係機関、団体へのヒアリングなどを実施し、意見交換や実情把握を進めてまいりたいと考えております。2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロにするためには、行政だけではなく、民間、それから事業者それぞ

れのご理解がなければ不可能であります。官民一体となりまして目標達成に向け取り組みを進めてまいります。具体的な目標につきましては、これから策定する導入戦略の策定のなかで協議してまいりたいと思います。近年地球温暖化による気象変動の影響で、想像を絶する自然災害が世界各地で起きています。本町におきましては昨年、記録的な大雨や降雪の異常気象による被害が発生するなど町民の生活に大きな影響をもたらしております。



▲ソーラーパネル



石井伸二議員

アフターコロナにおける今後の新型コロナウイルス感染症対策について

町長 再拡大時には積み上げたノウハウを生かし迅速な対策を取りたい

Q

5月8日より新型コロナウイルス感染症がインフルエンザ同様の5類感染症に移行されました。しかし、非常に感染力が強く、いまだ予断を許さない情勢だと思います。現に本町ではワクチン接種の継続、福祉施設での発症事例に伴う面会制限、置戸赤十字病院では発熱外来の継続、コロナ病床の存置など、以前と変わらない対応をしているところがあります。現在これといった治療薬もないため、自宅療養による濃厚接触者の増加も心配され、単身者世帯が多い本町において、引き続き罹患者の対応や予防対策が必要だと思えます。

A 本町におきましては、令和2年2月10日に置戸町新型コロナウイルス感染症対策本部を立ち上げ、以後29回にわたり本部会議を開催し、公共施設の閉鎖、衛生用品の整備、置戸赤十字病院と連携したワクチン接種、国の交付金を活用した経済対策など、議会にお諮りしながら効果的な新型コロナウイルス感染症対策に努めてまいりました。

本年5月8日より新型コロナウイルス感染症は、感染症法上の分類が2類相当から5類に引き下げられたことから、今までの制限が解除され、個人による予防対応にゆだねられることになりました。しかし、本町においてもこの5月以降に感染の報告がなされているのもお聞きしております。今後の新型コロナウイルス感染症への対応についてですが、感染症法上の分類が変わっても病気はなくなりません。再び感染が爆発的に拡大し、国や北海道が新たな対策を講じる場合には、本町においてもこれまで積み上げてまいりましたノウハウを生かして速やかに感染を最小限に食い止める対応を取っていくこととなります。町内で各施設、団体などでの感染状況により緊

急の対応が必要となった場合には、随時幹部職員を招集し、協議を進めてまいりたいと思います。

現在65歳以上の高齢者をはじめとする対象の希望者にワクチン接種を行っておりますが、秋以降には5歳以上の対象の希望者にもワクチン接種の計画をしております。ワクチン接種へのご理解をお願いするとともに、当面公共施設におきましては、アルコール消毒器などを撤去せず、安心して利用できるよう対応してまいりたいと思えます。町民の皆様

のなかには、現在も新型コロナウイルス感染症に対する不安、そして感染の事例もあると聞きしておりますので、コロナウイルスに限らず、地域福祉センターほかでは健

康不安や体調不良のある方につきましては、随時保健師が相談窓口となっております。また、ワクチン接種の窓口としてダイヤルインも設置しておりますので、相談しなければならぬようなことがあれば気軽に相談をいただきたいと思います。そして、町民が安心して暮らせるように相談窓口などの情報をホームページや広報などを通じて周知してまいりたいと思います。



▲置戸日赤ワクチン接種



6月26日

事前研修会を実施しました

置戸高校福祉科PR活動

札幌近郊の中学校訪問を前に、置戸高校において議員の事前研修会を実施いたしました。置戸高校の長尾校長、後藤教頭より置戸高校の概要と現状、支援対策費等の説明を受けた後、福祉科の実習や施設内の見学を行いました。生徒たちは教職員の指導の下、熱心に介護実習に取り組んでおり、置戸高校PRに向け、大変有意義な研修会となりました。



北海道町村議会議員研修会

北海道町村議会議長会主催の議員研修会が7月4日札幌市コンベンションセンターで開催されました。

全道から約1700名の町村議会議員が参加し、置戸町からも8名の全議員が参加してきました。

研修会は、渡部孝樹会長の開講のあいさつで始まり、ひょうご震災記念21世紀研究機構理事長、五百旗頭真氏による「ウクライナ危機後の世界と日本」と、政治ジャーナリスト、田崎史郎氏による「日本政治の舞台裏」の演題から、ウクライナ危機後の世界の変化そして今後どうなっていくのか、少子高齢化・人口減少における日本経済の課題などについて、講演がありました。最後に、富田忠行副会長の閉講のあいさつで研修会を閉会しました。



札幌近郊の中学校を訪問 置戸高校福祉科をPR



い合格率を維持していることや「福祉の夢」サポート奨学金制度などを説明し、全議員で置戸高校のPRを実施してきました。

全道町村議会議員研修会の翌日7月5日に札幌市、北広島市、恵庭市及び千歳市内の中学校（計7校）を訪問し、置戸高校福祉科のPR活動を行いました。道内で唯一の福祉科単置校で、最短で介護福祉士の国家資格が取得できる学校であり、高

委員会の活動状況

令和5年5月中旬から
令和5年7月中旬まで

総務常任委員会

【6月26日】

▽令和5年度総務常任委員会
所管事務調査計画について

議会運営委員会

【6月5日】

▽第5回置戸町議会定例会の
運営等について
▽議員協議会の開催依頼につ
いて(町長提案)

議員協議会

【6月12日】

▽第5回置戸町議会定例会の
運営等について

【6月13日】

▽Aコープおけと店故障冷蔵
冷凍庫に係る支援策につ
いて

【6月26日】

▽置戸高校事前研修会

議会広報特別委員会

【7月3日】

▽議会広報第206号のクリ
ニックと第207号の編集
について

議会広報特別委員会委員

委員長	石村 吉博
副委員長	前田 篤
委員	嘉藤 均
	石井 伸二

編集後記

4月の置戸町議会議員選挙により
新人3名、元職1名が新たに当選し、
改選前より半分が入れ替わる形とな
りました。

私を含め40代の現役子育て世代の
議員も2人当選となり、より一層各
世代の声を町政に生かせるようにな
ったのではないのでしょうか。

5月には初議会、新人議員の勉強
会などもあり、6月定例会では初の
一般質問と日々目まぐるしく過ぎて
いきます。緊張の新人議員初質問の
様子は置戸町のホームページからも
ご覧いただけるので、傍聴に來られ
なかつた方はそちらでご覧いただけ
ればと思います。

新人議員で分らないことだらけで
すが、新人だから出来ること、新人
なりの新しい視点があると思います。
温故知新。諸先輩方のご意見をいた
だきながら、力を合わせ置戸町を新
しい時代へと進めてまいります。町
民の皆様も遠慮なく我々にご指導ご
鞭撻いただければと思います！

(石村 吉博)

議会を傍聴してみませんか？

議会の動きをあなたの目と耳で!!

- ◇ 定例会は、3月・6月・9月・12月の4回開かれます。
- ◇ 臨時会は、必要の都度開かれます。
- ◇ 議会の様子をYouTube(ユーチューブ)で
録画配信しています。置戸町ホームページ
(<http://www.town.oketo.hokkaido.jp>)
またはQRコードから視聴すること
ができます。

